

令和6年度 教育事務の点検・評価報告書 (令和5年度対象)



教育長賞 大原中1年 高松 凛武
『最高の夏休み』

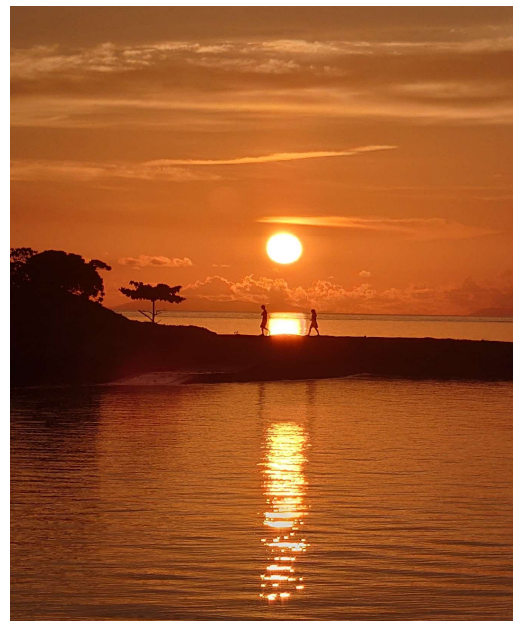


教育長賞 鳩間小3年 林 丈春
『鳩間ブルーと虹』



タケートル賞 竹富小6年 富本 詩葉
『海辺のお散歩』

海のデジタルフォトコンテスト2023
入賞作品



教育長賞 鳩間中2年 八幡 亮太
『心が落ち着く瞬間』



Take
tomi

竹富町教育委員会

報 告 書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定に基づき、令和5年度における竹富町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の結果を報告する。

令和6年11月

竹富町教育委員会

■ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

■ 竹富町教育委員会で扱う事務は、おおむね次のとおりである。

- 1 町立学校等の設置及び統廃合に関すること。
- 2 学級教材、教具の整備に関すること。
- 3 町立学校等の施設、設備及び管理、備品に関すること。
- 4 教育財産の管理及び財産台帳の整備保管に関すること。
- 5 教育委員会事務局及び教育委員会の所管する職員の任免その他、人事に関すること。
- 6 文化財に関すること。
- 7 町史編集に関すること。
- 8 学齢児童、生徒、園児の就学猶予並びに転退学、その他学籍に関すること。
- 9 教科書の採択、給与事務に関すること。
- 10 町立幼稚園に関すること。
- 11 学校給食に関すること。
- 12 社会教育に関すること。
- 13 生涯学習及びスポーツの振興に関すること。
- 14 青少年の健全育成に関すること。

目 次

はじめに	3
教育委員会委員名簿	3
外部評価委員(学識経験者)	3
教育主要施策体系	4
教育委員会の活動	5
(1) 教育委員会の概要	5
(2) 教育委員会の会議等の状況	5
(3) 教育委員の情報収集状況	9
(4) 教育委員会事務局の組織及び職員配置	9
(5) 教育費の状況	10
令和5年度 教育事務の点検評価	11
1 点検評価対象年度	11
2 点検評価内容	11
(1) 幼稚園、学校教育の充実	
(2) 社会教育・スポーツの充実	
(3) 伝統文化の保存と継承	
(4) 町史編集	
(5) 教育行政の充実	
(6) 教育事務点検総合評価	
3 点検評価の方法	12
教育事務事業点検評価	13
点検評価の結果一覧表	13
・事務事業点検評価シート	14
教育事務点検総合評価	43
教育委員会の機能充実	43
幼稚園・学校教育の充実	43

はじめに

竹富町教育委員会では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、本町の教育及び文化の振興に関する大綱を定め、①「自ら学ぶ意欲と豊かな心の育成」②「潤いと生きがいのある生涯学習のまちづくり」③「子育て支援などの課題への対応」④「スポーツ振興」⑤「伝統文化の継承発展及び文化活動の支援」⑥「第2次竹富町海洋基本計画の推進」⑦「世界遺産の学校教育への活用」⑧「自治体DXの推進」を教育目標に教育行政を推進しています。当該目標を推進する施策として、令和5年度に実施した各種事業の中から29事業を選定し、今年度の点検評価を行いました。

評価の方法は、各担当課が各事業の概要等を評価シートにまとめ、教育事務点検評価委員会で内容等の点検及び内部評価を行い、その後、学識経験者で構成される外部評価委員会による各課ヒヤリングを実施し、事業ごとに外部評価を付していただきました。

評価された各事業については、概ね計画どおりに又はそれ以上に執行されているとの評価を受けましたが、同時に様々なご提言をいただいております。

これらの貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の教育行政の推進に反映させるよう努めてまいります。

この報告書は、評価の結果と教育委員会の活動状況をまとめ、議会に提出するとともに、公表することで町民の皆様への説明責任を果たし、教育行政の質の向上を図ることを目的に作成したものです。

今後とも町民の皆様の教育行政へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

竹富町教育委員会教育長及び委員

職名	氏名	任期	備考
教育長	佐事安弘	自 令和6年10月1日 至 令和9年9月30日	
委員 (教育長職務代理)	嘉良寧	自 令和5年10月1日 至 令和9年9月30日	
委員	松原史	自 令和4年10月1日 至 令和8年9月30日	
委員	川満晃弘	自 令和4年10月1日 至 令和8年9月30日	
委員	仲底傑	自 令和5年4月1日 至 令和9年3月31日	

竹富町教育事務点検評価外部評価委員

氏名	備考
友利始夫	元校長
漢那ひとみ	元校長

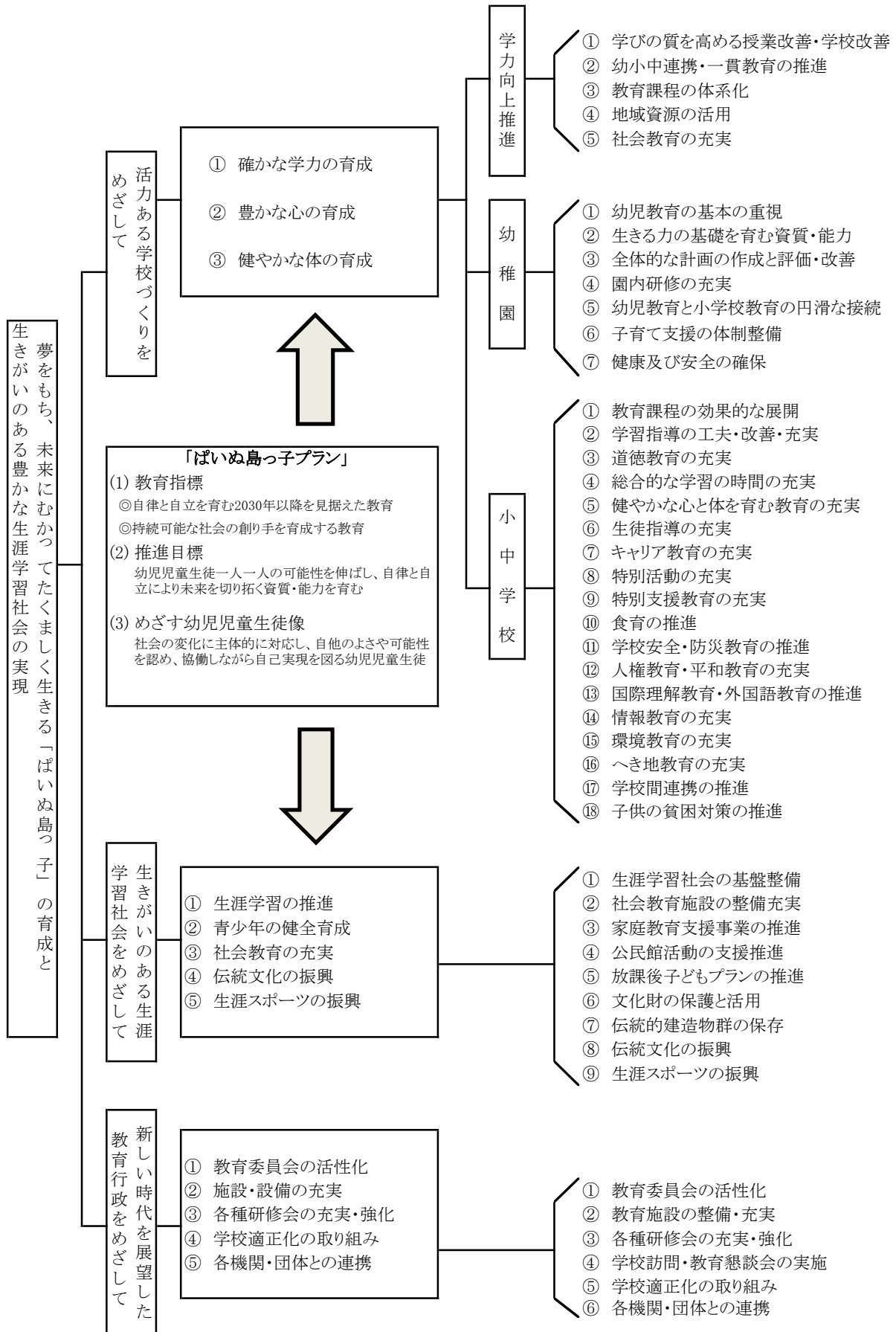
■教育主要施策体系

竹富町教育委員会

【目標】

【努力点】

【努力事項】



1 教育委員会の活動

(1) 教育委員会の概要

教育委員会制度の改革により、平成27年10月1日より教育委員長と教育長を一本化した「教育長」が設置され、教育長と委員(4名)で組織する合議制の実行機関であります。

また、総合教育会議は首長と教育委員会が教育施策について協議・調整の場です。これにより、首長が教育行政に果たす責任や役割が明確になり、首長と教育委員会が協議・調整することにより、これまで以上に両者の連携が図られ、教育施策の推進が可能になります。

教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会の代表(会議の主宰者、具体的な事務執行責任者、事務局の指揮監督者)となり、その任期は3年となっています。

(2) 教育委員会の会議等の状況

本町教育委員会においては、奇数月1回の定例会と随時開催の臨時会の開催と自主研修を実施し、事務局と連携しながら施策を推進してきました。

沖縄県市町村教育委員会連合会や八重山地区市町教育委員会協議会の総会・研修会等への参加については、オンライン会議等も含めて参加するなど県内各地区の教育委員と意見交換を行い研修を実施して参りました。

教育委員会定例会・臨時会においては、50件の報告・議案を審議いたしました。

総合教育会議については、12月6日に第1回を開き「古見小学校統廃合に伴う協議、報告等」を行った。令和5年度は1度のみ開催されています。

令和5年度の会議開催、付議事件及び内容は次のとおりであります。

	開催数	付議件数
定例会	6回	45件
臨時会	1回	5件
計	7回	50件

■ 会議開催状況、付議内容

開催回数	開催日	番号	議 案 名	結果
第4回 【定例会】	令和5年 5月26日	報告第20号	臨時代理の承認について(学校医・歯科医・薬剤師)の委嘱について)	承認
		議案第7号	竹富町伝統的建造物群保存地区等保存審議会委員の委嘱について	可決
		議案第8号	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	可決
		議案第9号	竹富町海洋基本計画の策定について	可決
		議案第10号	令和5年度竹富町一般会計補正予算(第1号)(教育委員会関係4)案について	可決
第5回 【定例会】	令和5年 7月27日	報告第21号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区保存条例の国の機関等に関する協議)竹富町	承認
		報告第22号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区条例の現状変更行為許可・回答)許可1号	承認
		報告第23号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区条例の現状変更行為許可・回答)許可2号	承認
		報告第24号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区条例の現状変更行為等回答)	承認
		報告第25号	臨時代理の承認について(令和6年度使用教科用図書採択審議会委員の委嘱について)	承認
		報告第26号	臨時代理の承認について(令和5年度竹富町海洋教育推進委員の委嘱について)	承認
		報告第27号	臨時代理の承認について(竹富町立学校評議員の委嘱について)	承認
		議案第11号	竹富町教育事務の点検評価外部委員の委嘱について	可決
		議案第12号	学校存続・統廃合に関する検討委員会委員の委嘱について	可決
		議案第13号	令和6年度使用教科用図書の承認について	可決
第6回 【定例会】	令和5年 9月28日	報告第28号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区条例の現状変更行為許可・回答)許可3号	承認
		報告第29号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区条例の現状変更行為許可・回答)許可4号	承認
		報告第30号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区保存条例の国の機関等に関する協議)竹富町	承認
		報告第31号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区保存条例の国の機関等に関する協議)石垣港湾事務所	承認
		報告第32号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区条例の現状変更行為許可・回答)回答	承認
		報告第33号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区条例の現状変更行為許可・回答)回答	承認
		報告第34号	臨時代理の承認について(令和5年度竹富町教育支援委員会委員の委嘱について)	承認
		報告第35号	令和5年度竹富町一般会計補正予算(第3号)(教育委員会関係について)	承認

■会議開催状況、付議内容

開催回数	開催日	番号	議案名	結果
第7回 【定例会】	令和5年 11月22日	報告第36号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区保存条例の現状変更行為許可・回答)許可第5号	承認
		報告第37号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区保存条例の現状変更行為許可・回答)許可第6号	承認
		報告第38号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区保存条例の現状変更行為許可・回答)許可第7号	承認
		報告第39号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区条例の現状変更行為許可・回答)回答	承認
		報告第40号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区条例の現状変更行為許可・回答)回答	承認
		報告第41号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区条例の現状変更行為許可・回答)回答	承認
		報告第42号	臨時代理の承認について(役員交代に伴う竹富町文化振興、観光交流拠点整備事業展示検討委員の承認について)	承認
		報告第43号	臨時代理について(竹富町文化財保護審議委員の委員の委嘱について)	承認
		報告第44号	臨時代理について(竹富町伝統的建造物群保存地区等保存審議委員の委嘱について)	承認
		議案第14号	令和5年度竹富町教育事務の点検評価報告書(令和4年度対象事業)について	可決
		議案第15号	令和5年度竹富町一般会計補正予算(第4号)(教育委員会関係)案について	可決
		議案第16号	竹富町立古見小学校の廃止について	可決
		議案第17号	竹富町立学校の通学区域を定める規則の一部を改正する規則	可決
第1回 【定例会】	令和6年 1月31日	報告第1号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区保存条例の現状変更行為・回答)許可第8号(西日本電信株式会社)	承認
		報告第2号	臨時代理の承認について(令和5年度内示)	承認
		報告第3号	臨時代理の承認について(令和5年度追加内示)	承認
		議案第1号	竹富町文化財等寄贈寄託受入要綱の制定について	可決
		議案第2号	竹富町立学校の教育職員の業務量の適正な管理その他教育職員の健康及び福祉の確保を図るための措置に関する規則の制定について	可決
		議案第3号	竹富町立学校の教育職員の上限に関する方針の承認を求めることについて	可決
		議案第4号	竹富町部活動及びスポーツ少年団等の在り方に係る方針を求めることについて	可決
第2回 【臨時会】	令和6年 2月20日	報告第4号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区保存条例の現状変更行為・回答)	承認
		報告第5号	臨時代理の承認について(竹富町歴史的景観形成地区保存条例の現状変更行為・許可)	承認
		議案第5号	令和6年度県費負担管理職等人事異動発令について	可決
		議案第6号	竹富町教育委員会の権限に関する事務の補助執行に係る規則の制定について	可決

■会議開催状況、付議内容

開催回数	開催日	番号	議案名	結果
		議案第7号	竹富町ふるさと応援奨学金給付条例施行規則の一部を改正する規則	可決
第3回 【定例会】	令和6年 3月29日	報告第6号	臨時代理の承認について(竹富町就学支援委員会条例施行規則の廃止)	承認
		報告第7号	臨時代理の承認について(令和6年度内示)	承認

(3) 教育委員の情報収集状況

教育委員会は、施設等の視察、学校支援訪問、事務局からの教育行政情報収集、専門知識収集のためオンラインをはじめ各研修会等への参加、他市町村教育委員会の情報収集及び課題解決の方向性模索のため、教育委員会連合会及び教育長協会などへの参加を通して教育関連情報の収集に努めました。

	内 容	件 数
1	課題施設等の視察	0件
2	学校等支援訪問(施設)	小中学校10、幼稚園2
3	研修会等への参加	15回 (Web:1回)
4	学校等行事への参加	入学式、卒業式、運動会、 学習発表会、その他
5	会議等への参加(教育長)	75回 (県外0、沖縄本島3、市内46、郡内10、 町内11、Web5)
6	その他 (教育委員会月報、時報市町村教委)	

(4) 教育委員会事務局の組織及び職員配置(令和6年3月31日現在)

課名	職名	係名	人員
総務課	課長1 課長補佐1	総務係	3 (3)
		施設係	1 (1)
教育課	課長1 課長補佐1	教育係	3 (6)
社会文化課	課長1 課長補佐1	社会教育係	1 (1)
		社会体育係	1 (1)
		文化財係	3 (2)
		町史編集係	2 (1)

()は再任用、会計年度、ALT等

(5) 教育費の状況

■教育費の推移

項目/年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育費	1,431,315 千円	996,212 千円	959,069 千円	951,059 千円	923,936 千円
1人当たり教育費	337,734 円	236,069 円	230,490 円	226,874 円	223,119 円
各年度3月末人口	4,238 人	4,220 人	4,161 人	4,192 人	4,141 人

■令和5年度教育費の内訳

(歳入)

1	分担金及び負担金	82	千円
2	使用料及び手数料	4,849	千円
3	国庫支出金	8,553	千円
4	県支出金	30,151	千円
5	財産収入	16	千円
6	寄付金	0	千円
7	繰入金	0	千円
8	諸収入	22,287	千円
9	町債	19,200	千円
		85,138	

(歳出)

1	総務管理費	6,462	千円
2	沖縄振興特別推進交付金事業	21,461	千円
3	教育総務費	160,024	千円
4	小学校費	263,016	千円
5	中学校費	121,198	千円
6	幼稚園費	65,195	千円
7	社会教育費	176,094	千円
8	保健体育費	110,467	千円
9	文教施設災害復旧費	0	千円
10	基金費	19	千円
		923,936	

■令和5年度の主な事業(教育関連)

(1) 幼稚園・学校教育の充実

- | | |
|------------------------------------|------------------------------------|
| 1 竹富町海洋教育推進事業 | 10 離島高校生修学支援事業
(離島高校寮生修学援助奨励事業) |
| 2 学力向上推進 | 11 ふるさと応援奨学金 |
| 3 竹富町内学校ICT支援員派遣事業 | 12 学校給食担当者研修会 |
| 4 公立学校情報機器整備事業 | 13 学校給食費賄材料費物価高騰分支援事業 |
| 5 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営 | 14 学校給食費補助事業 |
| 6 幼稚園預かり保育事業 | 15 小学校集団宿泊学習 |
| 7 特別支援教育支援員配置事業 | 16 姉妹町児童生徒交流事業 |
| 8 外国語指導助手(ALT)派遣事業
(外国青年招致事業含む) | |
| 9 町外等派遣費補助事業
(沖縄振興特別推進交付金) | |

(2) 社会教育・スポーツの充実

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 放課後子ども教室委託事業 | 4 竹富町球技大会 |
| 2 生涯学習委託事業(社会教育学級) | 5 国土交通大臣杯全国離島中学生野球大会 |
| 3 社会教育団体体育成補助事業 | 6 竹富町やまねこマラソン大会 |

(3) 伝統文化の保存と継承

- | | |
|------------------------|---------------------------------------|
| 1 文化財美化保全(沖縄振興特別推進交付金) | 4 史跡等活用整備事業
(史跡の調査及び修理工事・説明板設置) |
| 2 伝統的建造物群保存地区の景観保全 | 5 史跡等活用整備事業
(下田原城跡及び仲間第二貝塚私有地の公有化) |
| 3 竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業 | |

(4) 町史編集

- 町史編集事業

(5) 教育行政の充実

- 学校施設等の維持管理

令和5年度 教育事務の点検評価

1 点検評価対象年度 令和5年度

2 点検評価内容

点検評価内容については、教育事務点検評価委員会による内部評価及び学識経験者等による外部評価とし、「幼稚園・学校教育の充実」、「社会教育・スポーツの充実」、「伝統文化の保存と継承」、「町史編集」、教育行政の充実、「教育事務点検総合評価」について行った。

(1) 幼稚園・学校教育の充実

- 1 竹富町海洋教育推進事業
- 2 学力向上推進
- 3 竹富町内学校ICT支援員派遣事業
- 4 公立学校情報機器整備事業
- 5 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営
- 6 幼稚園預かり保育事業
- 7 特別支援教育支援員配置事業
- 8 外国語指導助手(ALT)派遣事業(外国青年招致事業含む)
- 9 町外等派遣費補助事業(沖縄振興特別推進交付金)
- 10 離島高校生修学支援事業(離島高校生寮生修学援助奨励事業)
- 11 ふるさと応援奨学金
- 12 学校給食担当者研修会
- 13 竹富町学校給食費賄材料費物価高騰分支援事業
- 14 学校給食費補助事業
- 15 小学校集団宿泊学習
- 16 姉妹町児童生徒交流事業

(2) 社会教育・スポーツの充実

- 1 放課後子ども教室委託事業
- 2 生涯学習委託事業(社会教育学級)
- 3 社会教育団体育成補助事業
- 4 竹富町球技大会
- 5 国土交通大臣杯全国離島交流中学生野球大会
- 6 竹富町やまねこマラソン大会

(3) 伝統文化の保存と継承

- 1 文化財美化保全(沖縄振興特別推進交付金)
- 2 伝統的建造物群保存地区の景観保全
- 3 竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業
- 4 史跡等活用整備事業(史跡の調査及び修理工事・説明板設置)
- 5 史跡等活用整備事業(下田原城跡及び仲間第二貝塚私有地の公有化)

(4) 町史編集

- 1 町史編集事業

(5) 教育行政の充実

- 1 学校施設等の維持管理

(6) 教育事務点検総合評価

- ・ 教育委員会の機能充実
- ・ 幼稚園・学校教育の充実

3 点検評価の方法

評価については、事業種目ごとに点検評価シートを作成し、評価基準を設定して、複眼的視点による評価を試みた。評価における評価基準及び総合評価基準については次のとおりとする。

(1) 評価基準

点数	妥当性	効率性	有効性	今後の展開
4	教育委員会が関与する妥当性が非常に高い。	投入コストに比べ活動量が非常に高い。	成果が非常に高い。	事業規模拡大が望まれる。
3	教育委員会が関与する妥当性が高い。	投入コストに比べ活動量が高い。	成果が高い。	事業規模の維持が望まれる。
2	教育委員会が関与する妥当性が低い。	投入コストに比べ活動量が低い。	成果が低い。	事業規模の縮小が望まれる。
1	教育委員会が関与する妥当性が非常に低い。	投入コストに比べ活動量が非常に低い。	成果が非常に低い。	廃止又は休止が望まれる。

(2) 点数

評価	妥当性・効率性・有効性・今後の展開の合計点
A	14点～16点
B	11点～13点
C	8点～10点
D	4点～7点

教育事務事業点検評価

令和5年度教育事務点検評価の結果一覧表

主要施策	事業名	担当課	内部評価	外部評価	ページ
幼稚園・学校教育の充実	1 竹富町海洋教育推進事業	教育課	A	A	14
	2 学力向上推進	〃	A	A	15
	3 竹富町内学校ICT支援員派遣事業	〃	A	A	16
	4 公立学校情報機器整備事業	〃	A	A	17
	5 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営	〃	A	A	18
	6 幼稚園預かり保育事業	〃	A	A	19
	7 特別支援教育支援員配置事業	〃	A	A	20
	8 外国語指導助手(ALT)派遣事業 (外国青年招致事業含む)	〃	A	A	21
	9 町外等派遣費補助事業 (沖縄振興特別推進交付金)	総務課	A	A	22
	10 離島高校生修学支援事業 (離島高校生修学援助奨励事業)	〃	A	A	23
	11 ふるさと応援奨学金	〃	A	A	24
	12 学校給食担当者研修会	〃	A	A	25
	13 竹富町学校給食賄材料費物価高騰分支援事業	〃	A	A	26
	14 学校給食費補助事業	〃	A	A	27
	15 小学校集団宿泊学習	教育課	A	A	28
	16 姉妹町児童生徒交流事業	〃	A	A	29
社会教育・スポーツの充実	1 放課後子ども教室委託事業	社文課	A	A	30
	2 生涯学習委託事業(社会教育学級)	〃	A	A	31
	3 社会教育団体育成補助事業	〃	A	A	32
	4 竹富町球技大会	〃	A	A	33
	5 国土交通大臣杯全国離島交流中学生野球大会	〃	A	A	34
	6 竹富町やまねこマラソン大会	〃	A	A	35
伝統文化の保存と継承	1 文化財美化保全事業 (沖縄振興特別推進交付金)	〃	A	A	36
	2 伝統的建造物群保存地区の景観保全	〃	A	A	37
	3 竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業	〃	A	A	38
	4 史跡等活用整備事業 (史跡の調査及び修理工事・説明板設置)	〃	A	A	39
	5 史跡等活用整備事業 (下田原城跡及び仲間第二貝塚私有地の公有化)	〃	A	A	40
町史編集	1 町史編集事業	〃	B	B	41
教育行政の充実	1 学校等施設の維持管理	総務課	A	A	42
教育事務点検総合評価	・ 教育委員会の機能充実	-	-	A	43
	・ 幼稚園・学校教育の充実	-	-	A	43

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町海洋教育推進事業	担当課	教育課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	3,211 千円	1,901 千円	2,135 千円
事業概要	島嶼型海洋自治体である本町の児童生徒が、海洋についての理解と関心を深め、将来にわたり海洋の恵沢を享受できるよう海洋教育を推進する。		
(1) 対 象	竹富町内小中学校		
(2) 目 的	海洋教育を通して竹富町への理解を深め、誇りと郷土愛を育み、竹富町としての一体感を醸成するとともに、海と共生できる本町の地域づくりや持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成する。		
(3) 事業内容	本町の豊かな自然や海洋文化を活かし、各小中学校において特色ある海洋教育を推進します。		
(4) 成果目標	令和6年度の成果目標 ①各種事業の実施 ②各校へ竹富町海洋教育推進事業補助金の交付 ③海洋教育推進委員会・海洋教育担当者協議会の開催		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①月間企画として「海のデジタルフォトコンテスト」の開催を実施。また、海洋教育クリーン活動、海洋教育サミット、海洋教育カレンダー作成を実施した。 ②一律10万円を町内13校へ補助金交付することができた。ほとんどの学校が補助金を活用していた。 ③海洋教育推進委員会は2回、海洋教育担当者協議会は3回開催した。 ④町単独事業となるが持続可能な海洋教育を推進することができた。		
	【課題等】 この事業を推進するにあたり、学校の協力が必要だが、今年度、教育委員会及び学校現場でも担当者が変わり、引継ぎがうまくいっていない部分があったので、学校現場では、人材リストを作成し、引継ぎ漏れを防ぐ。 町単独の事業となったため、予算に限りがあり、補助金の金額の減少や海洋教育サミットの規模縮小などの事業に影響があり、学校現場から厳しい声もあった。		
A			
外部評価	海に親しみ、海を知り、海を守り、海を活用する の4つの視点を基本とした本町の海洋教育は、SDGsを实践する人材の育成そのものであり、各学校では地域の特性を生かした自分たちができる足下からの取り組みが実践されています。さらに、竹富町海洋教育サミットや担当者会議等も継続して行われており持続可能な海を守り生態系の保護と回復を目指す資質能力の育成が図られています。限られた厳しい予算下だと思いますが、各学校の地道な実践は際だっています。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学力向上推進	担当課	教育課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	1,236 千円	1,328 千円	1,618 千円
事業概要	町内を9つの地区に分け、各公民館長を委員長とした地区学力向上推進委員会を設置し、学校・家庭・地域・行政が連携して、子ども達の「生きる力」を育み、将来に夢を持ち目標を立て努力し、社会の創り手となる人材育成を推進する。		
(1)対象	幼児・児童・生徒、教職員、PTA、地域		
(2)目的	学校、家庭、地域、行政が一体となって、幼児・児童・生徒一人ひとりに「生きる力」につながる「確かな学力」の向上を図る取組みを推進する。		
(3)事業内容	1.町学力向上推進委員会及び実践報告会 2.各地区学力向上推進委員会総会及び実践報告会 3.教育講演会 4.標準学力調査、中3実力テスト実施 5.学校支援訪問等での指導助言		
(4)成果目標	① 竹富町学力向上推進要項に基づき、「令和5年度版ばいぬ島っ子プラン」を推進し、9つの各推進委員会の取組充実を図る。 ② 全国学力・学習状況調査、県学力到達度調査等の結果を分析し、町内子ども達の強みを生かし、課題改善に努める。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 9つの各地区においては、地域の物的資源・人的資源を結びつけ、地域の実態に応じた地域総ぐるみの学力向上が推進された。 ② 学校支援訪問等において、授業についての指導助言を行うことで、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を図ることができた。 ③ 中3学力調査及び県学力到達度調査において、小学校・中学校ともにほとんどの学年・教科で県平均正答率を上回った。 ④ 町内の中学3年生全員の進路が確定した。		
	A	【課題等】 ① 学習指導要領全面実施に向けた教育課程編成の工夫改善 ② 地域に開かれた教育課程(多様な人々とのつながりや地域・社会と結びついた授業づくりの見直し)。主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実践の推進 ③ 自律・自立教育(自分で考え、自分で判断し、自分で行動することができる)の徹底 ④ 各地区の分析結果を共有し、次年度への確かな引き継ぎ事項とする。	
外部評価	地域ぐるみの学力向上の取り組みが日常的に実践され、児童生徒の学力は全国学力学習状況調査や県単位の調査等において高い定着率として現れています。中学卒業後の親元を離れた環境下では、取得した学力が①自活できる「生活力」、②臆することなく表現できる「コミュニケーション能力」として、「生きて働く力」になることが必要です。児童生徒の学習進度や個性に合わせて学びを深めることで自己の可能性を最大限に引き出すことを意識した学力向上の取組(いわゆる「個別最適化された学び」)が肝要です。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町内学校ICT支援員派遣事業	担当課	教育課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	5,525 千円	8,196 千円	9,669 千円
事業概要	学校現場において、教育ICT機器の効果的な授業活用や日常的に発生する機器の不具合等の問題に迅速に対応することが望まれており、十分な知識と対応力をもつICT支援員を町内の各小中学校へ派遣する。		
(1) 対象	竹富町内小中学校		
(2) 目的	児童生徒の学習意欲等の向上を目指し、教育用PC・電子黒板・タブレット等のICT機器を効果的に活用した分かりやすい授業を実現するため、竹富町内の各小中学校へICT支援員を派遣する。		
(3) 事業内容	各小中学校へICT支援員を派遣し、以下の業務を行う。 ①ICT機器のメンテナンスや、管理・運用に関する助言 ②ICT機器に関する教員向けの研修会の実施 ③ICT機器の活用実績の集計、分析及び教育委員会への定期的な報告等		
(4) 成果目標	①各校へ月に1回以上のICT支援員派遣 ②各校における教育ICT機器の適切な管理・運用 ③情報モラルの指導・助言		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 令和5年度は、委託業務と会計年度のICT支援員2名体制でスタートすることができ、コロナ明けで各校への派遣回数を増やすことができ当初の目標が達成された。		
	【課題等】 各学校の故障した機器等の対応をICT支援と協力して解決していきたい。		
A			
外部評価	前項「学力向上推進」の実践事項と合わせて、「個別最適な学び」(教師の視点に立った場合は、個に応じた指導)は、子供が自ら学習を調整しながら学んでいく態度を身に付けていくのに必要なものです。「個別最適」を意識したICTの学びへの活用は、ステップ1の「すぐに」、「どの教科でも」、「誰でも使える」も有効な手段でありICT支援員の配置は各学校において必要不可欠な条件だと思います。次項「公立学校情報機器整備事業」と連携した取り組みで児童生徒の学びの充実を図ってください。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	公立学校情報機器整備事業	担当課	教育課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	21,317 千円	3,018 千円	5,019 千円
事業概要	GIGAスクール構想の実現に向けて、令和2年度に町内の各小中学校へ1人1台端末等の情報機器整備を実施したが、町内各小中学校へ遠隔教育等に対応する情報機器を整備する。		
(1) 対象	竹富町内各小中学校		
(2) 目的	多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人ひとりに公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を目指す国の施策「GIGAスクール構想」の実現に向け、町内の各小中学校へ1人1台端末等の情報機器を整備する。		
(3) 事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGA端末の管理・整備 ・電子黒板の設置 ・Webカメラ・書画カメラの設置 ・AI型教材(キュビナ)導入 		
(4) 成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGA端末の管理・整備 ・各小中学校へ電子黒板の設置 ・各小中学校へWebカメラ・書画カメラの設置 		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 夏休み・冬休みなどに端末持ち帰りを実施し、児童生徒の学びをある程度保障することができた。 町内の小中学校へ電子黒板、Webカメラ及び書画カメラを購入し、各学校へ配備した。 AI型教材(キュビナ)を導入したことで個に応じた学習が進められるようになった。学校によっては家庭学習等の活用がみられた。		
	【課題等】 オンライン学習に備えて整備したモバイルWi-Fiについては、通信費の確保や家庭への貸出に関する仕組みづくりを行い、ICT機器を活用した遠隔学習が行える環境を整える必要がある。 また、各小中学校へ電子黒板を設置したが、以前に配備して経年劣化等の電子黒板もあり故障が増えてきており、修繕するか購入するか検討する必要がある。		
A			
外部評価	「GIGAスクール構想」の一環として行われる本事業は、15の春を迎える本町の生徒の一人一人の夢の実現に活かすものとして有効な手段です。ステップ1「すぐに」、「どの教科でも」、「誰でも使える」→ステップ2「教科の学びを深める」→ステップ3「課題を解決し夢の実現」の実践に前項「竹富町内学校ICT支援員派遣事業」と併せて継続・安定した情報機器の整備充実を図ってください。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営	担当課	教育課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	14,631 千円	14,317 千円	16,410 千円
事業概要	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮の運営を行う。		
(1) 対象	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮へ入寮する児童生徒(小4～中3)		
(2) 目的	学校の存続が危ぶまれる鳩間島において、留学を支援する鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮を運営し、留学生を受け入れることで安定的に児童生徒を確保すると共に、地域の活性化を図る。		
(3) 事業内容	①寮監の雇用(地域おこし協力隊) ②留学生の受入(定員8名) ③寮監や留学生による地域活性化(地域行事等への積極的な参加)		
(4) 成果目標	留学生の受け入れ(定員8名)		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 今年度は、入寮生6名を受け入れることができ、6名無事に1年間の留学を修了することができた。令和5年度は、継続入寮が4名、新規入寮が2名あり、合計6名で入寮を迎える。 寮監については、今年度は集落支援員、地域おこし協力隊の制度活用により3人体制で運営することができた。 地域行事へ積極的に参加し、地域と交流することが多くなった。		
	【課題等】 冬場になると、船舶欠航が多くなり、食材の供給が滞ることがあり、委員会職員が大原港から上原港まで食材を運搬をすることがあった。食材発注のタイミングや賞味期限が長い食材を多めに発注するなど工夫する必要がある。		
A			
外部評価	鳩間島に留学した子どもたちにとって、豊かな自然の中での学校生活や地域行事等、日常生活を通じた地域の人たちとのふれ合いは、心身ともに健全な成長と夢実現への機会が生まれると期待しています。令和5年度も3人体制でつばさ寮が運営されていますので、年間を通して子どもたちの安心安全な生活が保障されることに期待します。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	幼稚園預かり保育事業	担当課	教育課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	10,479 千円	18,927 千円	0 千円
事業概要	幼稚園教育時間終了後、幼稚園管理下において希望する在園児を預かり保育することにより、幼児の心身の健全な発達を図るとともに保護者の子育て支援を図る。		
(1)対象	幼稚園教育時間終了後、家庭内保育が困難な幼児(4歳、5歳)		
(2)目的	幼児の心身の健全な発達及び保護者の子育て支援		
(3)事業内容	幼稚園教育時間終了後から午後5時までとし、また、夏季休業時は、午前8時30分から午後5時までの預かりを実施。		
(4)成果目標	保護者のニーズにあった保育を推進する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 保育料無償化と、保護者のニーズに寄り添った保育で、高い利用率を維持できている。 ② 預かり保育のない日に、預かり担当の先生方を対象とした研修会を実施し、保育内容の充実を図ることができた。		
	A	【課題等】 ① 保育サービスのニーズが高く、職員が研修等で預かりを休みにすることに対し、保護者からできるだけ避けてほしいとの声がある。 ② 人材確保が困難。 ③ 令和6年度より、本事業は教育委員会からこども未来課へ移管のため、令和6年度予算なし。	
外部評価	子どもたちが慣れ親しんだ環境の中で落ち着いて過ごせること、保護者のニーズに寄り添う保育の推進により安心して預けられること等、幼児の心身の健全な発達と、保護者の子育て支援が図られていますが、職員研修によりサービスが提供できない等の課題もありましたので、令和6年度のこども未来課への移管により預かり保育の充実が期待できます。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	特別支援教育支援員配置事業	担当課	教育課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	20,219 千円	21,915 千円	29,975 千円
事業概要	町内幼稚園・小学校・中学校に特別な支援を必要とする園児・児童・生徒に係る支援員を配置する。		
(1)対象	支援員の支援を要する町内の園児・児童・生徒		
(2)目的	発達障害等により学習や生活面に特別な支援を必要とする園児・児童・生徒に対して特別支援教育支援員を配置し、児童生徒に応じた適切な支援を行う。		
(3)事業内容	①各園、小中学校からの支援員要請を受け、概ね1日6時間、週30時間の間で、学校長の指導の下、担当教員と協力し、対象園児児童生徒に学習支援を中心に学校生活上の介助等、適宜に支援を行う。		
(4)成果目標	当該幼児児童生徒の実態や教員のニーズに応じた配慮、支援の工夫等による学ぶ意欲や社会性の向上。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 支援員の配置により、支援が必要な園児・児童・生徒の適切な支援が行われ、落ち着いて学習に向かうことにつながっている。また、支援員配置により、担任の負担が軽減され、安定した学級経営が図られた。 ② 幼稚園・小中学校における特別支援教育に関する教職員の意識の向上にも繋がり、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を行うインクルーシブ教育の理解と実践に繋がっている。 ③ 町独自で琉大教授を講師に、支援員研修会を開催することで支援員の質の向上が図られた。		
	A	【課題等】 ① 例年、特別支援教育支援員の人材の確保が難しく予算を確保しても支援員配置ができない学校がある。 ② R6より幼稚園が子ども未来課に移管される。	
外部評価	各学校のニーズに対応した人材配置により児童生徒への個に応じた適切な支援体制が図られてきましたが、一方で人材確保において地域間格差が生じるという課題がありました。幼稚園のこども未来課への移管とともに、小中学校においては「個別最適な学び」(前2項、3項)の実践と併せてインクルーシブ教育の充実が図られるものと期待します。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	外国語指導助手(ALT)派遣事業 (外国青年招致事業含む)	担当課	教育課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	14,617 千円	14,451 千円	15,097 千円
事業概要	町内幼・小・中学校にALTを派遣することにより、生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会を提供し、外国語によるコミュニケーション能力の向上と国際感覚の養成を図ることを推進する。		
(1) 対象	竹富町内の幼稚園、小学校、中学校の幼児、児童、生徒		
(2) 目的	中学校の英語教育と国際理解教育の充実・推進を図るとともに、小学校での英語活動、国際理解教育の充実に資する。		
(3) 事業内容	1. 中学校における英語科授業の補助 2. 小学校及び幼稚園における外国語活動等の補助 3. 英語教材作成の補助及び英語能力関係事業などへの協力 4. 幼・小・中学校への特別活動及び課外活動への協力		
(4) 成果目標	①町内の幼・小・中学校にALTを派遣し、幼児児童生徒に生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会を提供する。 ②幼児児童生徒の外国語(英語)への興味・関心の向上を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①各小・中学校へ年間24回、幼稚園へ年間10回ずつALTを派遣できた(船便の欠航等により派遣できない場合は、オンラインを活用した)。 ②児童生徒へのアンケートの結果から「ALTの授業を受けて、英語が楽しいと思いますか。」の問いに対し、約9割の児童生徒が「とても楽しい」「楽しい」と回答していた。このことから、ALTの派遣により児童生徒の外国語(英語)への興味・関心が高まっていることがわかる。		
	【課題等】 児童生徒の外国語(英語)への興味・関心を更に高めるため、安定した授業の実施が重要となるため、船便欠航などで派遣できない場合は、ICT機器を活用しオンライン授業を行うなど、安定した授業を実施できるように整備する。		
A			
外部評価	令和5年度もALTの活用により9割の児童生徒が「英語がとても楽しい」と答えており当派遣事業の充実がうかがえる。児童生徒の英語力の向上やALTとの異文化交流により、語学力だけでなくグローバル社会に対応できる人材育成にも寄与するところから、当事業の充実に期待します。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	町外等派遣費補助事業	担当課	総務課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	9,367 千円	9,198 千円	9,367 千円
事業概要	竹富町の児童生徒の大会等への参加に係る派遣費について、交付要綱にもとづき補助金として交付する。		
(1) 対象	竹富町立小中学校に在籍する児童生徒		
(2) 目的	児童生徒のスポーツ等の各種大会等への派遣費を補助し、保護者の負担軽減や各種大会等での貴重な体験経験を活かした人材育成に寄与し、沖縄本島等と離島の格差是正を図る。		
(3) 事業内容	竹富町立小中学校の児童生徒の大会等への派遣にかかる経費のうち、船賃(実費)・宿泊費(上限あり)・航空賃(上限あり)を要綱にもとづき補助金として交付する。		
(4) 成果目標	町外等派遣に係る保護者負担を軽減するとともに、大会等参加により他島の児童生徒との交流や島内よりも高いレベルの競技者との試合等町内ではできない経験をすることで、子どもたちの心と体の健やかな育成を促す。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 本事業については、継続的に実施することにより学校・団体・個人にも周知され、多数の児童生徒に活用されている。大会での勝利や八重山代表選抜等、子どもたちの活躍も見られる。また、派遣目的の中には英語スキットコンテストやSUP競技などが見受けられ、様々な分野で本事業が活用されている。学校や保護者への成果指標アンケートでは、「本補助金によって町外での試合も積極的に出場できた」等、本事業への満足度がわかった。		
	A	【課題等】 ①代表選抜や、地区大会での成績、天候その他による延期や中止等、予測が付きにくい要素も多くあるので、現状に合わせて柔軟な予算の増減や配分が必要とされる。 ②引き続き、高い満足度を維持しつつ、事業の目的に合致するものについては補助対象として対応できるよう適宜交付要綱の見直しを検討し、事業の更なる充実を図る。	
外部評価	児童生徒の島外における活躍の場の保障や個性の伸長が図られ、保護者の負担軽減にも大きく寄与している。なお、離島においては、旅費以外の派遣に付随する経費(移動・食事・練習場所確保等)も大きな負担となることから、これらの周辺課題の負担軽減を図ることは子どもの成長に伴う地域間格差の解消にもつながります。補助金対象枠の見直しが検討されていることから、今後の当事業の充実に期待するものです。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	離島高校生修学支援事業 (離島高校寮生修学援助奨励事業)	担当課	総務課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	(修学支援) 17,114 千円	(修学支援) 23,650 千円	(修学支援) 27,330 千円
	(寮生) 4,495 千円	(寮生) 5,390 千円	(寮生) 6,270 千円
	(合計) 21,609 千円	(合計) 29,040 千円	(合計) 33,600 千円
事業概要	高等学校教育の円滑な修学にあたり、通学に要する交通費、及び居住費を助成する。		
(1) 対象	保護者が本町に住所を有し且つ在住しており、その対象となる生徒が町立中学校を卒業し高等学校に修学している者		
(2) 目的	保護者の経済的負担の軽減、教育の機会均等により地域社会に有為な人材を育てるため、通学費等の一部を補助金として交付する。		
(3) 事業内容	○修学支援： 通学に要する経費、及び居住費(アパート、下宿、寮費等) 上限額24万円を補助。(補助対象事業： 国庫1/2、県費1/4、町1/4(起債)) ○寮費： 修学支援費の上限24万円に満たない差額分を、補助金として交付する。		
(4) 成果目標	高校未設置離島における保護者の経済的負担を軽減し、教育の機会均等と地域社会に有為な人材を育成を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 年間3回の申請時期を設け、生徒1人あたり24万円(上限)を補助することで、高校未設置離島における保護者の経済的負担を軽減し、教育の機会均等が図られた。また、寮費のうち食費が対象外経費のため、離島高校生修学支援補助金の上限額に満たない差額分について、離島高校寮生修学援助奨励金交付事業で補助金として交付することで、寮生の修学を援助し奨励した。		
	A	【課題等】 町内(島内)に高校が未設置であり、石垣市内の県立3高校に設置のある学科や部活動が限られていることから、年々八重山郡外への進学も増えている。多くの高校生が寮やアパート・下宿での生活を余儀なくされるため、保護者負担を軽減し、竹富町の子どもたちに進路選択の自由と十分な学びの機会を確保する必要がある。	
外部評価	修学支援事業と寮生修学援助奨励金交付事業との併用により島外高校に修学する生徒およびその保護者に手厚い支援が図られ、地域間格差による教育的障壁が解消されている。本町の生徒が島外において安心して勉学に励み、自立の道を為し遂げるためにも継続した本事業の充実に期待するものです。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	ふるさと応援奨学金	担当課	総務課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	5,400 千円	7,100 千円	4,200 千円
事業概要	将来、大学等を卒業したのち竹富町内及び竹富町役場において、専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す者の修学に必要な資金を支給する。		
(1) 対象	竹富町に1年以上住所を有する者の子、または扶養にある者		
(2) 目的	将来、大学等を卒業したのち竹富町内及び竹富町役場において、専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す者の修学に必要な資金を支給する。		
(3) 事業内容	奨学金を給付する期間は、正規の終業期間とし、月額50,000円とする。 就職する期間については、最低、正規の終業期間の2倍の期間とする。		
(4) 成果目標	専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す者の修学に必要な資金を支給することで、その人材育成を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 R5年度:12名の対象者へ支給を実施した。 (対象者進学地:沖縄本島2名・県外10名) うち、1名が自主退学となったが、5名の学生が卒業した。 R6年度募集において1名の応募者があり、選考委員会により1名を奨学生として決定した。		
	【課題等】 引き続き制度の周知に努め、必要とされる学生に支給することで、本人及び保護者の経済的負担を軽減し、竹富町の将来を担う人材育成に寄与していきたい。		
A			
外部評価	費用対効果が高い事業と思いますが応募者が減少していることから、多くの町民に制度の周知を図る工夫が必要と考えます。さらに、この事業を通して卒業後に地域に貢献・活躍する人々の様子をマスコミに公表することも制度の充実につながると思います。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学校給食担当者研修会	担当課	総務課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	209 千円	242 千円	126 千円
事業概要	食事は健康の保持・増進、疾病予防の基本であり、食事づくりに携わる者の役割は大きい。衛生管理対策の徹底等、調理員の業務の再認識及び再確認をし、より良い給食業務の推進を図る。		
(1) 対象	町内学校給食調理従事者等		
(2) 目的	学校給食調理業務に携わる職員等を対象に研修会を行い、衛生管理についての知識・技術向上と調理員間の交流及び情報共有を図る。		
(3) 事業内容	学校の夏期休業期間を利用し、沖縄県環境科学センターより講師を招き、衛生管理等についての研修会を行う。		
(4) 成果目標	調理施設における衛生管理・食中毒対策について、研修会を通して学習し知識・技術の向上を目指すとともに、調理員間の交流及び情報共有により、安心安全な給食の提供を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 毎年、給食提供のない期間を利用し、衛生管理に係る研修会を開催している。本町では単独調理場、共同調理場が数箇所あり、各調理員等の交流を行うことが難しいため、年に1度の研修会時に職員同士の親睦を深め課題や問題について相談しやすい体制づくりをおこなっている。令和5年度は、調理室における衛生管理(食中毒情報、HACCPマニュアル運用等)をテーマに学校給食担当者等研修会を行い、年度末(令和6年3月)には、「一般的衛生管理」について新人調理従事者向けの初歩的な内容で開催することができた。		
	A	【課題等】 研修の場、情報共有の場を増やす必要があると考えるが、給食担当者(調理員)の業務のない期間内で各島の行事日程等考慮の上調整をしないといけない(島によっては石垣に一泊する必要や傭船利用が必須となる)ため、複数回の開催がむずかしい。また、各調理員によって調理業務に携わる年数にも幅があるが、年数に応じたレベル別の内容での研修開催が行いづらいのが課題である。	
外部評価	学校給食のHACCPの導入によって、食材の受け入れから食事の提供までの各工程における細かな記録と監視が行われ、衛生管理の透明化が一層図れているものと思いますが、単独調理校が多い竹富町においては特に日常的な給食担当者研修会は重要と考えています。移動手段が困難な地域ですが、食の安全確保の上でも集合研修だけでなくオンライン研修(実技研修も可能)の機会を増やすこともご検討ください。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町学校給食費賄材料費物価高騰分支援事業	担当課	総務課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	1,940 千円	2,374 千円	0 千円
事業概要	食材等の物価高騰による学校給食費賄材料費の不足分については、保護者から追加徴収するのではなく県の補助金を活用して各調理場の割当額に上乘せする。		
(1) 対象	竹富町立小中学校の学校給食賄材料費		
(2) 目的	コロナ禍において学校給食賄材料購入は食品の物価高騰影響により厳しい状況にあり、本来であれば高騰分の追加徴収が必要だがそれをせず保護者等納入義務者に経済的負担をかけることなく、栄養バランスのとれた十分な量の給食の安定的提供を確保し、児童生徒及び教職員等の健やかな心身の維持・育成に寄与する。		
(3) 事業内容	食材等の物価高騰による学校給食費賄材料費の不足分については、保護者から追加徴収するのではなく県の補助金を活用して各調理場の割当額に上乘せする。		
(4) 成果目標	(賄材料費*物価高騰指数:食料)分について、学校給食費として保護者から追加徴収せず、県の補助金を活用して各調理場の割当額に上乘せする。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 食材等の物価高騰による学校給食賄材料費の不足分について学校給食費の追加徴収は行わず、県の補助金を活用して各調理場の割当額に上乘せすることにより、保護者等納入義務者に経済的負担をかけることなく、栄養バランスのとれた十分な量の給食の安定的提供を確保し、児童生徒及び教職員等の健やかな心身の維持・育成ができた。		
	A	【課題等】 食材を含めた物価高騰はとどまることなく続き、今後も賄材料費の不足が予想されるところではあるが、事業は新型コロナ臨時創生交付金を財源としており、この交付金は恒久的なものではないことから、事業継続の見通しが立たない。保護者から徴収する学校給食費の金額調整を含め、学校給食費の歳入(交付金・補助金/納入義務者からの徴収/町単費)と歳出(賄材料費)の構成を慎重に検討していく必要がある。	
外部評価	食材料費の高騰分を保護者に転嫁することなく、県の補助金活用により食材の安定供給と適切な学校給食が運営されています。一方、昨今の「貧困世帯の経済的な負担が軽減」、「給食費の滞納や集金の手間やトラブルの解消」等の課題解決に向けての施策が叫ばれています。学校給食は児童生徒が学校生活を豊かに送るための根幹をなすものですので、財源確保に向けた計画的推進(14項と併せ令和6年度予算額0円が気になります)をお願いします。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町学校給食費補助事業	担当課	総務課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	
	18,440 千円	16,470 千円	
R6年度予算額	0 千円		
事業概要	令和5年度竹富町立小中学校児童生徒の学校給食費を全額免除し、既に納付された金額については全額還付する。		
(1) 対象	竹富町立小中学校児童生徒の学校給食費納入義務者(保護者)		
(2) 目的	竹富町立小中学校児童生徒の学校給食費を全額免除することにより保護者を経済的に支援し、長引くコロナ禍の物価高騰の影響で厳しい状況にある子育て世帯の負担軽減を目的とする。		
(3) 事業内容	令和5年度竹富町立小中学校児童生徒の学校給食費を全額免除し、既に納付された金額については全額還付する。		
(4) 成果目標	学校給食費の免除100%、既納付額の還付100%		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 竹富町児童生徒給食費免除事業実施要綱第3条、第4条及び第5条の規定にもとづき、合計13,127,310円(執行率100%)の児童生徒学校給食費を免除し、長引くコロナ禍の物価高騰の影響で厳しい状況にある子育て世帯の経済的負担軽減に寄与した。		
	A	【課題等】 子育て世帯の経済的負担軽減のため学校給食費の無償化を実現することが望まれているが、事業は新型コロナ臨時創生交付金を財源としており、この交付金は恒久的なものではないことから、事業継続の見通しが立たない。沖縄県からも給食費無償化についてはヒアリングがあり、将来的には県から何らかの財源が確保されるような流れもあるが、その際積算基礎としては保護者からの徴収分のみか町単費補助での上乗せ分も含まれるのか、または県内統一の一食単価となるのか(竹富町のような小規模調理場ではコスト高となることを県に理解いただきたい)等、情報共有に努め、今後の給食費月額等慎重に検討する必要がある。	
外部評価	前項と同じであるが、保護者の皆さんが強く要望している学校給食費の無償化の継続のためにも、国の交付金が見込めない現状において、高い割合を占めている竹富町ふるさと応援寄附金「教育振興に関する事業」の活用も含め行政として率先した取り組みをご検討ください。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	小学校集団宿泊学習	担当課	教育課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	48 千円	367 千円	582 千円
事業概要	21世紀を担う竹富町の児童が、自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境で、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、交流を通してよりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を行う。		
(1) 対象	竹富町内小学校5年生		
(2) 目的	① 恵まれた自然の中での集団宿泊活動を通して、見聞を広め自然に親しむ。 ② 竹富町内の小学5年生が寝食を共にすることによって、友人を増やし友情を深め合う。 ③ お互いの島の様子や竹富町の様子を知り、郷土に対する理解を深める。		
(3) 事業内容	① 集会活動(オリエンテーション、レクリエーション、班会議、平和学習) ② 体験活動(野外炊飯活動、野生動物保護センター見学、星空観察)		
(4) 成果目標	① 島外の同級生と交流を図ることにより、コミュニケーション能力を育成する。 ② 体験活動を通して、他者理解を促し、生きる力を身につけさせる。 ③ 平和学習を通して、命の尊さについて理解を深める。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 新型コロナウイルスの影響による活動中止が続いていたが、町内各校の先生方の協力もあり、数年ぶりの実施することができた。GIGA端末を活用した事前学習や、ICTを利用した各校の担任との連絡調整も充実しつつ、2日間の日程では大自然の中で、日頃できない豊かな体験活動を実施することができた。		
	A	【課題等】 ①当日朝の便で、西表東部入りできない学校の児童の対応。(引率教諭も含めた前泊対応) ②安全面、費用面、児童の体力面に配慮した活動内容活動の工夫(R5はカヌー体験から野外炊飯へ変更)	
外部評価	本町の子どもたちは日頃から豊かな自然環境下で学校生活を送っていると思いますが、小集団故に同世代との人間関係形成能力を培う機会が少ないのは否めません。集団宿泊学習は、知らない者同士で寝食を共にしたり、さまざまな体験活動を通して仲間と困難を乗り越えたりする中で、多くの達成感が生まれ心身の成長が図られます。竹富町の子どもたち(特に小学5年生)にとって、高い教育効果が期待できる事業と捉えています。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	姉妹町等児童生徒交流事業	担当課	教育課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	0 千円	2,914 千円	0 千円
事業概要	本町と姉妹町の盟約50周年を迎えるにあたり、斜里町からの児童生徒の交流受け入れと、本町児童の北海道斜里町への訪問交流		
(1) 対象	竹富町内各小学校代表1名		
(2) 目的	斜里町と竹富町は、雄大な国立公園を有することから、姉妹町の盟約を結び、その特性を活かした姉妹町児童交流事業を実施している。 本町の児童生徒が斜里町を訪問し、異なった自然と文化に直に触れ、体験することにより、視野を広げ知識を深める人材育成の機会とし、斜里町の児童生徒との交流を通して絆を深め、今後の両町の更なる発展と豊かな町づくりを期することを目的とする。		
(3) 事業内容	①北海道斜里町からの児童受け入れ交流 ②竹富町代表児童の北海道斜里町への訪問交流		
(4) 成果目標	①本町と斜里町の異なった自然と文化に直に触れ、体験することにより視野を広げ、知識を深める。 ②斜里町の児童との交流を通して絆を深める。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①これまでの斜里町との交流事業による繋がりと絆を実感する、充実した交流内容であった。 ②参加した児童の視野、知見を深めることができた。 ③参加した町内各校の代表児童同士の交流機会としても大きな成果があった。 ④児童の事前学習の持ち方や事後の研修にGIGA端末を活用し、タイムリーなやりとりで、事業を進めることができた。		
	A	【課題等】 ①各校より代表1名での派遣交流であったが、学校によっては1名選出に苦慮していた。 ②事業の日数や内容の検討。(受入、訪問) ③受け入れに係る予算、訪問に係る予算の確保。 ④5年おきの事業となるため、物価高騰や、実施年度の両町の実情も鑑みながら、持続可能な事業とするための、斜里町との調整。	
外部評価	派遣される児童は各校一人に限られていますが、受け入れる学校の子どもたちも異文化を体験することになります。子どもたちは、異文化体験と同時に共通点も発見し、親しみを感じ、共感し、広い世界に目を向ける機会になります。現地交流の無い年度は、多様な意見を交換したり、コミュニケーション力を培ったりする機会を創出するためにICTを活用した協働学習等の交流事業も考えられます。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	放課後子ども教室委託事業		担当課	社会文化課
事業費	令和4年度実績額	令和5年度実績額	令和6年度予算額	
	761 千円	1,229 千円	2,070 千円	
事業概要	放課後等に学校の施設(余裕教室・体育館等)を利用して、子どもたちが安全かつ安心して活動できる拠点を設け、地域住民の参画を得て、学習活動や様々な体験・交流活動を通して地域社会の中で、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。			
(1)対象	教室を委託設置した校区内の小中学生を対象			
(2)目的	放課後の子どもたちの、安全で健やかな活動場所の確保を図る。			
(3)事業内容	<p>【令和5年度実施団体名】</p> <p>①黒島小中学校(黒潮っ子放課後子ども教室)</p> <p>②大原小・中学校(大原わくわく放課後子ども教室)</p> <p>③竹富小中学校(こぼし放課後子ども教室)</p> <p>④白浜小学校(白浜放課後子ども教室)</p> <p>⑤上原小学校・船浦中学校3件(住吉公民館育成会こども放課後教室・寺子屋こども放課後教室・船浦こども放課後教室)</p> <p>※国庫補助=7教室</p>			
(4)成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方々の協力を得て、学習活動、文化、スポーツ活動に取り組むことにより、子どもたちが健やかに育まれる環境づくりを推進する。 ・ 学校・家庭・地域による共同の取組により、「地域の子どもは地域で育てる」との環境及び意識の向上を図る。 			
【点検評価】	<p>評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価</p> <p>A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価</p>			
区分	評 価 の 説 明 【成果・課題等】			
内部評価	<p>【成果】</p> <p>学校と地域が協力し、放課後の子どもたちの安心安全な居場所を確保するとともに、スポーツ、伝統芸能の習得、教科の予習復習等、有意義な各種活動を行えた。地域住民の方々がボランティアや各種活動の講師として参加することにより、地域との連携及びコミュニケーションが図られている。</p> <p>令和5年度は、7校(竹富地区・黒島地区・大原地区・船浦地区・上原地区・住吉地区・白浜地区)で実施し、それぞれの教室で子どもたちの知識や技能の向上が図られた。</p>			
	A	<p>【課題等】</p> <p>①ボランティアで運営協力していただける方や教育活動サポーター、講師等の人材確保にも引き続き努めなければならない。</p> <p>②竹富町子ども・子育て支援事業計画では、放課後の子どもの居場所づくりに対する方針について、放課後子ども教室の取り組みを充実することで、放課後児童クラブ(放課後児童健全育成事業)を補完するとしていることから、各地区で取り組むことができる体制を確保する必要がある。取り組みへの理解を深めるための周知方法も検討しなければならない。</p>		
外部評価	<p>核家族化が進む中、放課後の子どもたちの過ごし方として、安心・安全な居場所の確保は、ますます重要視されている。地域の子どもは、地域で育てる、地域の子どもは、地域の宝として育てる気概があり、本事業も地域の協力なしでは成立しない。課題として挙げられている運営協力者の人材不足があり、教職員が中心となり、学校現場にしわ寄せがないかという懸念もある。</p>			
	A	<p>学校・家庭・地域の連携により、これまで継続してきたことで、子供たちの知識や技能の向上が見られたことは大きな成果である。各地区で得られた成果を共有することでさらなる向上を期待したい。</p>		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	生涯学習委託事業(社会教育学級)		担当課	社会文化課
事業費	令和4年度実績額	令和5年度実績額	令和6年度予算額	
	823 千円	1,196 千円	1,500 千円	
事業概要	町民の生涯にわたる学習の機会を充実するため、委託事業者が社会教育事業を開設し、運営に必要な経費の定額を支給する。			
(1)対象	町民(町内の社会教育関係団体)			
(2)目的	青年教室・婦人学級・家庭教育学級室・成人大学講座を各種団体へ委託し、生涯学習の機会を提供する。			
(3)事業内容	<p>【令和5年度実施学級及び団体名】= 8学級 ■婦人学級=4教室・青年学級=2教室・成人大学学級=2教室・家庭教育=1教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・婦人学級/豊原、干立、祖納、白浜婦人会 ・青年学級/細崎。干立青年部 ・成人学級/祖納公民館 ・家庭教育学級/祖納子ども会 			
(4)成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの講座及び教室終了後、地域のリーダーとして生涯学習の実践者になっていく。 ・地域において学習の成果をさらに広めていく。 			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評 価 の 説 明 【成果・課題等】			
内部評価	<p>【成果】</p> <p>地域特性や人材を生かした計画を立案し、生涯学習の場として各年齢層が繋がりを持った活動が行え、地域の活性化も図られた。また、各教室の活動は地域の歴史や文化、伝統芸能等の習得・継承に大きく貢献できている。</p>			
	<p>【課題等】</p> <p>事業実施(計画立案を含む申請～活動運営～実績報告)について、申請手続きの簡素化等を検討し、多くの団体が本事業を活用しやすいように周知を継続的に実施しなければならない。</p>			
A	新型コロナも落ち着き、各地域で学級の取組が進んでおり今年度は全体で8団体の申請があります。(婦人4学級・青年2学級・家庭教育1学級・成人大学1学級)			
外部評価	本事業は、社会に出てからの学び直し・リカレント教育の一貫でもあり、生涯学習の中心となる部分であり、今後とも継続して推進する事業で評価できる。リカレント教育の実施により、青少年の社会参加、地域コミュニティの継続にもなり地域の歴史や文化、伝統芸能の習得・継承に大きく貢献できていることも評価すべきことである。今後は、各島々の団体が気軽に本事業に参加できるシステム作りも必要であり、地域への周知も継続して行えるよう期待したい。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	社会教育団体育成補助事業	担当課	社会文化課
事業費	令和4年度実績額	令和5年度実績額	令和6年度予算額
	3,065 千円	3,065 千円	3,365 千円
事業概要	各種団体活動の育成及び青少年の地域活動振興及び推進の育成補助		
(1)対象	各種社会教育団体(公民館、青年会、PTA、子ども会、婦人会等)		
(2)目的	各種団体における学習機会の提供と自主的な活動を支援し、豊かな人間性と団体の資質向上を図ると共に地区の活性化を図る。		
(3)事業内容	各種団体活動の育成及び青少年の地域活動振興及び推進の育成補助		
(4)成果目標	各種団体への活動支援を目的とした育成補助を行い、団体の資質向上と指導者の育成を図り、各種団体の活性化を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評 価 の 説 明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 各種団体へ補助金として交付することにより、創意工夫した活動が展開され、地域貢献や人材育成へ活かされた。青年団協議団が新型コロナの影響もあり5年ほど活動をいていないが、地域での活動は活発なため、町の活性化のためには、青年団協議会の活動再開に向け協力をしていきたい。		
	A	【課題等】 各種団体の取組みについて、社会教育委員又は社会教育指導員が積極的な指導助言等を行い、活発な活動が実施できるよう環境づくりを含め継続的に支援する。	
外部評価	各種社会団体の活動の場を広げるための補助事業は、生涯学習、SDGsへの取り組みとしても期待できる。また、地域と地域を結び、互いに切磋琢磨しながら各種団体活動振興、青少年の地域活動振興及び推進の育成に貢献している。町教委に設置されている社会教育委員や社会教育指導員の積極的な活用も重要であり、今後さらに発展できるよう、さらなる改革にも期待したい。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町球技大会	担当課	社会文化課
事業費	R4年度実績額	R5年度予算額	R6年度予算額
	850 千円	1,500 千円	1,500 千円
事業概要	お年寄りから青年層まで、気軽に参加できる競技種目を設けることにより、スポーツを通して、町民の健康増進と交流の機会を創出する。		
(1)対象	<ul style="list-style-type: none"> ・竹富町に住民登録を有する者 ・アマチュア競技者 		
(2)目的	町民が各種のスポーツ行事に参加できる機会を提供し、スポーツに親しみ健康と体力の増進を図り、明るく生き生きとした生活の向上と地域活性化を目指し開催する。		
(3)事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール ・ソフトバレーボール ・グラウンドゴルフ 		
(4)成果目標	大原中学校を主会場に三会場で実施し、町内の各公民館から選手及び、応援団が参加することにより、スポーツを通して町民相互の親睦を深める機会とする。		
【点検評価】	<p>評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価</p> <p>A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価</p>		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	<p>【成果】</p> <p>① 町民が各種のスポーツ行事に参加できる機会を提供し、町民がスポーツに親しみ健康と体力の増進を図り、明るく生き生きとした生活の向上と地域活性化を目指し毎年開かれている事業である。町民が一堂に会する機会が少ない本町に於いて、毎年開催している本球技大会が、スポーツを通して町民相互の交流を深める良い機会となっている。</p>		
	<p>【課題等】</p> <p>① 毎年競技力は向上し、スポーツに親しみ健康と体力の増進を図ることは浸透してきたが、高齢者向けの種目の選定と多くの町民が参加できる種目の選択が必要とされる。</p>		
A			
外部評価	<p>スポーツに親しみ、町民の健康と体力の増進を推進する事業として継続されていることは望ましいことである。各島々からそれぞれの競技の選手が一堂に集まり町民相互の交流を深める良い機会である。また、本事業の目的を継続して取り組まれていることも評価できる。今後は、高齢者や障害を持った人にもチャレンジできる種目を考える必要がある。</p>		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	国土交通大臣杯 全国離島交流中学生野球大会	担当課	社会文化課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	2,000 千円	2,500 千円	2,500 千円
事業概要	島の未来を担う少年少女たちが野球を通して幅広い”交流”をはかり、友情を育むとともに夢と希望と勇気をもつことの大切さの実感、郷土を思う誇りと心を醸成し、島の活性化、人づくりに資する。		
(1)対象	竹富町立中学校(代表選抜)		
(2)目的	地理的環境から島外との交流機会の少ない全国の離島中学生が一堂に会し、野球を通じて「島」と「島」の交流を図ることにより、新たな人間形成や健全な青少年の育成を促進することで、将来を通じた離島地域の振興に寄与することを目的とする。		
(3)事業内容	野球大会・交流試合・さよならパーティー		
(4)成果目標	離島甲子園に出場できることに感謝の気持ちを忘れず、大好きな野球ができる喜びを感じながら、元気よく伸び伸びプレーし、離島中学生との交流の輪を広げる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① チーム名「竹富町選抜」 本大会は、鹿児島県奄美大島で開催され、本町中学生18名が参加した。7度目の出場となり、念願の初勝利から勢いに乗り3位という好成績を収めた。 試合後には、プロ野球OB会による「野球教室」や「さよならパーティー」が行われ、プロのレベルを肌で感じ、また他チームとの交流も図られ、新たな体験となり財産となった。		
	A	【課題等】 ① 竹富町代表として出場しているが、現状は大原中と船浦中の2校のみ参加している。他の離島でも野球に興味はあるが、野球をする環境がない中学校もある。その学校の生徒も参加できるような取り組みが課題となる。	
外部評価	離島へき地の悩みを解決すべくチーム編成と競技への参加ができ、直接県外の生徒と交流できる画期的な事業である。この体験は社会人として、将来の「生きる力」としての財産となり、社会で立派にやっていくための土台作りにも繋がると思われることから、本事業の今後の取り組みにも期待したい。 今後は野球のみならず他の競技でも企画があれば、積極的に参加できるようなシステム作りにも期待したい。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	やまねこマラソン大会	担当課	社会文化課
事業費	R4年度実績額	R5年度予算額	R6年度予算額
	4,500 千円	2,500 千円	2,500 千円
事業概要	西表島特有の大自然を活かしたマラソンコースを設定し、町民をはじめ全国からのジョガーと沿道の地域住民ボランティアの応援・声援で大会を盛り上げる。また、レース後は「ふれあいパーティー」を企画し、参加者、大会関係者スタッフ、住民との交流の機会を創出する。		
(1)対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3km(八重山郡内の中学校男女) ・ 10km(16歳以上男女) ・ 23km(16歳以上男女) 		
(2)目的	日頃から健康ジョギングで体力づくりに励んでいるスポーツ愛好者を迎え、「世界自然遺産の西表島をさわやかに走ろう」を提唱し、さわやかな汗で健康と体力増進及び青少年の健全育成を図るとともに、スポーツイベントによって交流の輪を広げ、地域の活性化を図り本町のさらなる発展を目指す。		
(3)事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3km(中学校男女) ・ 10km(16歳以上男女) ・ 23km(16歳以上男女) 		
(4)成果目標	大会開催も第29回を数え、全国的にも知名度の高い大会である。出場選手に満足してもらえるよう、コースの安全性を含め職員、地域ボランティアを動員して大会の運営にあたる。また、大会に欠かせない、ふれあいパーティーの企画も各種団体との連携により、地域活性化が図られる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評 価 の 説 明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 本大会で、29回を数える大会となり、本町に於ける一大スポーツイベントとなっている。1,230名の参加申込があり、出場者1056名、完走者1022名、完走率96.8%という非常に高い完走率を記録した。競技後のふれあいパーティーも好評で、選手だけでなく子供から高齢者まで大勢の人が楽しめるイベントである。 ② 本大会は、土曜日開催の大会と事前から町のホームページやマラソンガイド等広く紹介するなど、県内外の参加者や宿泊需要は大きく地域の経済効果にも寄与している。		
	A	【課題等】 ① 毎年、県内外から多くの参加があるものの、会場及び宿泊施設のキャパシティに限界がある。また、冬場の開催であることから、船便が大原航路となる場合があることから、選手の移動をいかにスムーズに行えるかに苦慮している。	
外部評価	地域の活性化の事業として定着し、本町をアピールする大会である。「世界自然遺産の西表島」を楽しみながら走れる喜びを県内外にアピールできる。また、健康ジョギングで体力増進及び青少年の健全育成にも貢献できている。住民のボランティア応援、声援や町職員の献身的な努力の賜物である。今後も役場全体のイベントとして共同体制を維持してほしい。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	文化財美化保全事業 (沖縄振興特別推進交付金)	担当課	社会文化課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	3,260 千円	4,141 千円	4,510 千円
事業概要	指定文化財の美化・保全		
(1) 対象	竹富町内の国指定文化財、沖縄県指定文化財、竹富町指定文化財		
(2) 目的	指定文化財の利活用を図るために美化・保全を行う。本町の有する多くの文化財美化保全を推進し、本町特有の歴史文化や景観を恒久的に維持し、歴史文化財を活用し、観光資源として活用し地域の文化財保護振興を図る。		
(3) 事業内容	文化財指定地において、雑草や雑木の除去作業等の美化・保全を行い、見学者及び観光客に利用しやすい環境を整備する。		
(4) 成果目標	地域の文化財愛護の意識高揚が期待されるとともに、指定文化財等が生涯学習の場として活用されることや、来訪する観光客の満足度が高まることを期待する。指定文化財16箇所、指定候補文化財7箇所の美化保全清掃を実施する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 沖縄振興特別交付金事業により、町内各地に所在する文化財の美化保全事業として清掃を行った。 竹富島 ⇒小城盛、西棧橋、蔵元跡、新里村、ミーナ井戸、トゥンナ井戸、コントウ井戸、ナージ井戸、ガイセン井戸、赤山公園 西表祖納⇒大竹祖納堂儀佐屋敷跡、慶来慶田城翁屋敷跡、大平井戸、タブの老木、上村遺跡内古道、新盛家住宅 鳩間 ⇒東井戸、西井戸、鳩間中森 黒島 ⇒ブズマリ、伊古棧橋 波照間 ⇒下田原城跡、シムスケー、コート盛 新城 ⇒タカニク、ターヌホ道、クイヌパナ、クイヌパナ道 小浜 ⇒大岳、カンドウラ石および節定め石、コーキ原遊歩道 古見 ⇒サキシマスオウノキ群落、バギナーカー、古見の浦節歌碑		
	A	【課題等】 今年度、西表島東部の古見地区が文化財美化保全事業に加わり、竹富町内全島で事業実施することができた。 場所によって重機や資機材使用の必要があるため、地域と連携して作業内容の見直し・改善を図り、美化保全事業の継続に努めたい。	
外部評価	本町の歴史や文化を後世に伝える事業としては、文化財の美化保全活動は必要であり重要であり、本事業が継続達成されていることを評価したい。今後は地域全体が文化財に興味関心を持てるような機会や場の設定も含め、美化活動にも積極的に参加できる体制が望まれる。また、学校とのタイアップにより、文化財マップが作成できれば、観光資料としても役立つことが考えられるため、本事業の広がりを検討してほしい。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	伝統的建造物群保存地区の景観保全	担当課	社会文化課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	26,720 千円	639 千円	20,957 千円
事業概要	伝統的建造物群保存地区における修理や修景及び現状変更行為に対する許可や指導等		
(1) 対象	竹富町竹富島伝統的建造物群保存地区		
(2) 目的	重要伝統的建造物群保存地区(昭和62年4月28日)の選定を受けた竹富島の集落景観、その価値を維持するために必要な事業を行う。		
(3) 事業内容	竹富島の集落景観を構成する建造物等のうち、歴史的な景観価値を有する保存物件の保存修理工事の補助や、修景が必要な物件の修景工事を補助することによって、集落景観の保全を図る。		
(4) 成果目標	老朽化が進む保存物件の修理を進めるとともに、現状変更行為に対して適宜指導を行い、景観保全を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①伝建修理を行う設計業者・工事業者が見つからず、事業が繰越となった。島内に1件あった工務店も令和4年度を持って、暫く閉鎖となり、島内での工事が難しくなった。 ②伝建審議会を2回開催した		
	A	【課題等】 ①設計業者・工事業者を探すのに時間を要した。今後も、伝建事業は継続されていくが、技術者・資材・工事費を含め、多くの課題が山積している状態である。特に、人材の不足と工事費の高騰による影響は顕著であり、伝統的な建造物を維持していくための補助金や人材について検討して行かなければならない時期にあると思う。 ②準景観条例が施行された事により、竹富島内で現状変更を行う際の提出書類の整合性を取れるよう、規則を見直す必要がある。	
外部評価	重要伝統的建造物保護区の歴史的景観を維持する本事業は家屋の建造を後世に残す上で重要な事業が展開されており、評価できる。年2回の伝建審議会の開催や準景観条例が施行されたことにより、島内住民とのコンセンサスが必要な事情であるため、引き続き連携強化した取り組みで、課題解決のため継続、努力してほしい。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業	担当課	社会文化課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	1,124 千円	4,097 千円	4,922 千円
事業概要	アナログ資料のデジタル化および、わらべ歌等の収集を行う		
(1) 対象	竹富町内の文化財等		
(2) 目的	施設整備に先立ち、年長者からの方言を含む聞き取りや地域に残る文化財の調査を実施し、その結果を地域住民や国内外へ公開・発信することで、地域固有の伝統文化の伝承のほか観光客の来訪促進を図る。		
(3) 事業内容	R3年度の基本計画の提言に基づき、年長者から地域に残るわらべ歌等の聞き取り・記録調査及び映像資料のデジタル化を行った。		
(4) 成果目標	公開に向けた資料収集の完了及び、映像資料のデジタル化		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 昨年度に続き、年長者からわらべ歌・方言等地域の無形文化財の資料収集を行った。事業の実施にあたり、学識経験者・町内各団体の長等からなる展示検討委員会と幹事会を開催し、助言を受けながら計画どおり事業完了することができた。		
	【課題等】 施設の整備に先駆け、古老からの聞き取り等、失われつつある貴重な文化の伝承に取り組んだ。R5年度は2年目になる竹富島と新たに古見を対象として実施した。竹富では、わらべ歌を良く知る方が逝去し、記録したわらべ歌が最後の音源となってしまった。古見では、古見の歌を知る長老が少なく、石垣へ出て聞き取りをするなどの苦労があったと聞いている。島に残る古老からの聞き取りは、時間が経てば経つほど難しくなるため、良い方法を急ぎ模索する必要がある。さらに、デジタル化したアナログ資料を公開できるように、町史を含めてデータベースの検討を行って行く。		
A			
外部評価	本事業の提言に基づきR5年度は、事業内容が施設整備に先駆け、古老から聞き取るなど失われつつある貴重な文化の伝承に取り組んでいることを評価したい。島に残る古老からの聞き取りは時間が経てば経つほど難しくなることから、良い方法を急ぎ模索する必要がある。デジタル化したアナログ資料を公開できるように町史を含め、デジタル化したアナログ資料を公開できるように検討する必要がある。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	史跡等活用整備事業	担当課	社会文化課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	37,306 千円	12,566 千円	18,550 千円
事業概要	史跡の調査及び修理工事と説明板設置		
(1) 対 象	町内史跡や国指定史跡の調査及び修理、説明板設置		
(2) 目 的	町内に多く残る史跡は、指定の有無に関わらず地域の成り立ちや文化を伝える貴重な地域遺産である。史跡の調査や修理を行い説明板を設置することで、後世へ継承する。		
(3) 事業内容	毀損した史跡の修理や、町史跡の調査等を行う。		
(4) 成果目標	貴重な史跡が滅失しないよう適時対応するとともに、測量等で事前に記録を残すことで不測の事態にも対応可能な資料作成する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①国指定史跡先島諸島火番盛小城盛石積み復元工事(竹富島) ②国指定史跡先島諸島火番盛大岳学習説明板設置(小浜島)		
	【課題等】 ①整備計画に基づき、事業を実施した。 昨年解体工事を行った竹富島の小城盛では復元工事を行い、作業員に地元の人を入れるなど石積み技術の継承を含む事業を行った。 ②説明板設置工事では、整備計画で統一したデザインの説明板を制作・設置した。 先島諸島火番盛は広域指定されている史跡であるが、今後の活用に向け、保存活用計画の策定が求められているため、次年度以降計画を策定する。		
A			
外部評価	本町における往時の海上渡来の歴史を残す上で火番盛は重要な遺跡であるため、本事業における復元、修理に継続的な努力を評価したい。史跡の調査や修理を行い説明板を設置することで、後世へ継承するという思いの伝わる本事業を今後も継続してほしい。特に石積みの継承は喫緊の課題でもあることから、社会教育の一つとして取り上げ、その技術の継承を各島々に残していくことも必要かつ重要である。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	史跡等活用整備事業	担当課	社会文化課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	7,498 千円	10,733 千円	0 千円
事業概要	土地買上げ事業(下田原城跡・仲間第二貝塚)		
(1) 対 象	下田原城跡および仲間第二貝塚私有地の公有化		
(2) 目 的	下田原城跡は相続関係が複雑であることから買取りが進まず、指定から15年以上たった今も民有地が介在している。時間の経過とともに相続が増え続けている事から、早急に買上げを行い史跡の調査・維持管理を行っていく必要があるため買上げを行う。また、県史跡仲間第二貝塚等の私有地においても、所有者と調整が着いた土地から公有化を進める。		
(3) 事業内容	下田原城跡および仲間第二貝塚私有地の土地を公有化する		
(4) 成果目標	土地の公有化		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①史跡西側部分で一番面積の大きい1筆の買上げが終了した事により、西側のほとんどの買取りが完了した。遺産分割協議が難航している土地については相続人へ分割支払等の提案により円滑に協議がまとまった。令和4年度に土地鑑定を行った土地についても時点修正と個別の画地算定を行い、適正な価格で買上げを進め、10筆の買上げを行った。 ②県史跡である仲間第二貝塚においても、2筆の私有地を公有化した。		
	A	【課題等】 ①東側2筆の登記は昭和11年から更新されておらず、相続人が81名(現時点)に及ぶ為、遺産分割協議が難航する事が予想される。公有化後は本来見えていたであろう海が見えるように、また、石積み遺構を壊さないよう城跡内の樹木を整理し、案内板の設置等を含む地元の人や観光客が学習できるような活用を行っていく。さらに、公有化ができた段階で発掘調査を行っていきたい。 ②県史跡である仲間第二貝塚では、所有者が土地の処分を行いたいという要望があり、公有化を進めた。今後、指定文化財該当地のうち私有地となっている土地で、土地の処分等で問合せがある場合は、土地鑑定業務を入れた上の適正な価格で公有化ができるように、進めて行く必要がある。	
外部評価	長年の懸案事項であった史跡の私有地の買上げが順調に進んだことを大いに評価したい。史跡西側部分で一番大きい1筆の買上げが終了したことにより、西側のほとんどの買取りが完了したことも評価したい。今後は、更なる整備計画により発掘調査を行い、石積み遺構を壊さないよう整備を進めてほしい。また、発掘調査を大切にし、県史跡の維持管理に努めてほしい。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	町史編集事業	担当課	社会文化課
事業費	令和4年度実績額	令和5年度実績額	令和6年度予算額
	11,395 千円	2,564 千円	5,900 千円
事業概要	『竹富町史だより』〈第52号〉〈第53号〉発行		
(1)対象	竹富町民、一般人、研究者		
(2)目的	竹富町の先人たちが築いてきた特色ある町の歴史や自然を島々の個性を際立たせて位置付けながら、編集・発行を行うこと。それにより町民一人ひとりのみならず、竹富町の先人の顔を思い浮かべることができる親しみやすいものとする。これらが竹富町のかけがえのない共有財産として後世に引き継がれ、豊かな町(島)づくり、人づくりに資することを目的とする。		
(3)事業内容	竹富町史刊行物の編集・発行		
(4)成果目標	地域を知るための基礎資料として活用され、かつ学術的にも信頼される町史編集事業		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 『竹富町史だより』は町民を対象とした機関誌である。町内全戸に配布し多くの方々の手に渡ると同時に、広く町史編集事業をアピールできた。 令和5年度は、斜里町と姉妹町の盟約を交わして50年の節目である。『竹富町史だより』〈第52号〉〈第53号〉ともに、斜里町との交流をメインとして編集した。そのことにより『町史だより』と連動した写真展「斜里町との交流の歩み」が、町内8カ所(庁舎を含む)で開催されることにつながった。斜里町との協力で広く報道され、節目にふさわしい内容になった。『竹富町史 第八巻 西表島』は、現在編集中である。提出原稿の確認・査読・校正しながら、同時に版下制作を行なっているが、昨年度刊行に至ることができなかった。		
	B	【課題等】 基礎資料を整えると同時に、「島じま編」の編集・発行を進めていくにあたって、スケジュール管理が大きな課題である。当初計画していた『竹富町史 第八巻 西表島』の刊行については、部会長・石垣金星氏の逝去により、章立ての再構成を迫られ、新たに執筆者を依頼するなどの課題が生じ、刊行に至らなかった。新たな執筆者により原稿が提出されたばかりで、その査読・校正に時間を要しているところである。	
外部評価	竹富町の先人たちが築き上げてきたこと特色ある各島々の歴史・文化や自然を各島々の特色を生かし編集・発行することは、かなりの労力を要する事が想像できる。先人が築き上げてきたことを、現代に生きる人たちが調査し、竹富町民の偉大な財産として後世に残していく本事業は大変貴重である。今後も、町民にとっての貴重な財産として編集・発行に努力している社会文化課の編集員に対して敬意を表するとともに今後の調査等にも期待したい。		
B			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学校施設等の維持管理	担当課	総務課
事業費	R4年度実績額	R5年度実績額	R6年度予算額
	45,804 千円	57,277 千円	44,011 千円
事業概要	学校施設等の維持管理に係る修繕及び点検		
(1) 対象	竹富町立小中学校・(交流センター)・共同調理場・教員宿舎		
(2) 目的	学校施設等の中には、経年劣化や自然災害等によって児童生徒の安全・安心が失われる恐れがあるため、修理や修繕等の整備を行い学校環境の安全・安心を図る。		
(3) 事業内容	学校施設等の現況を調査し、破損、腐食箇所を修繕し、安心安全な学校環境の維持・管理。		
(4) 成果目標	年次的に学校施設等の修理や修繕等を行い、快適で安全・安心な学校環境の整備を進める。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 1. 令和5年度においては、小中学校(交流センター)・共同調理場・教員宿舎等、緊急性の高いものを優先し修理・修繕を実施した。 2. 各学校(特別学級を含む)空調機の設置や修繕を重点的に実施した。 3. 老朽化の進行が見受けられる竹富小中学校と西表東部調理場の耐力度調査を実施した。		
	A	【課題等】 1. 本町の学校施設は老朽化が進んでいるものが多数あり、また設置年度も重複しているものが多数見受けられる。修繕に対し予算の平準化を図り計画的に修繕をしていくための計画を策定する必要がある。 2. 施設耐力度調査を実施し危険度の高い建物を優先的に長寿命化や建て替えに向けて取り組む必要性もある。また各学校施設の水洗トイレの洋式化の向上にも緊急的に取り組む必要がある。	
外部評価	学校施設の老朽化が進み、各学校からの修理・修繕等の要望も多くあることは否めない。このような状況下、町教委は安全性・緊急性を基に優先順位を付け真摯に対応していると思われる。一方、子供たちの安心・安全を確保する上でも、各学校における日頃の安全点検実施を指導し、事故が起こらないように周知徹底することも重要である。今後は、長期的な予算確保のためにも、設備の長期計画を策定し先を見据えた予算確保にあたってほしい。		
	A		

令和5年度 教育事務点検総合評価

■教育委員会の機能充実

総合評価	〔 A 〕	<p>教育を取り巻く社会状況が急速に変化する中で、本町教育行政についてはあらゆる分野から補助金を活用し、児童生徒への充実した教育環境整備の取り組みは高く評価する。今後は、学校教育・社会教育に課された課題解決のために、なお一層創造性と積極性をもった教育行政が推進される事が重要です。その課題可決には教育委員会と町長との効果的な連携のあり方、「総合教育会議のあり方」「関係する町長部局等との連携促進」が最重要ですので、教育委員は地域・学校現場の声を教育行政に反映し積極的な意見を述べて頂き、教育長を中心にし、職員一丸となって教育行政に取り組んで頂きたい。</p>	
1	教育委員会の概要	〔 A 〕	<p>教育委員会の機能強化、活性化のため教育長を中心にし、教育委員の皆さんがそれをしっかり支え議論を行い、そして事務局の職員がその下で教育施策を展開できていることは望ましい。また、教育委員会だけで抱え込まず町長との協議、調整の「総合教育会議」を引き続き開催し町長部局との連携に取り組んで頂きたい。</p>
2	教育委員会の概要と会議の状況	〔 A 〕	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会(奇数月)、臨時会(随時)の開催については、適正と判断する。 ・会議内容については、多数報告事案が占めていますが、特に条例、規則等の一部改正は、計画的に議案として委員会での審議を望みます。 ・児童、生徒に関わる給付金・支援員・給食等の事案については、引き続き取り組んで頂き、委員会として教職員の働き方改革についても国、県、学校現場と連携し竹富町らしい働き方改革を委員会でも取り組んで頂きたい。 ・次年度も「総合教育会議」を開催し町長との協議・調整に努めて欲しい。
3	教育委員会の情報収集状況	〔 A 〕	<p>各島々への学校訪問、学校地域行事への参加、視察研修、各種研修会等々へ教育長をはじめ、教育委員、事務局職員が、こまめに参加し現場の声を聞いたり、対応したり、また、自主研鑽に努め、与えられた役目をしっかり果たしている事は、高く評価できる。</p>
4	教育委員会事務局の組織及び職員配置	〔 B 〕	<ul style="list-style-type: none"> ・組織及び職員配置に関しては、町長部局との調整の中、効率的に機能していると考ええる。 ・事業が多種にわたり多忙を極め、内容によっては主管の移譲、職員配置など検討が必要な部分もあるかと思慮する。
5	教育行政	〔 A 〕	<p>教育費の歳出は、適正に処理されていると確認する。町全体の財政状況が厳しい事は理解するが、特に学校の施設は、災害時には避難所としての機能も果たすため、安心安全であることが重要と考えます。老朽化が進んでいる施設、災害に強い機能強化施設に関して長期的な計画策定に向けて取り組んで頂きたい。</p>

■幼稚園・学校教育の充実

総合評価	〔 A 〕	<p>預かり保育の無償化は、保護者の経済的な理由や仕事との両立の不安に関わらず、どんな家庭でも幼児教育をあきらめなくて済む制度で、保護者の幼児教育への興味・関心が高まるという大きな成果が出ています。令和6年度から、当事業のこども未来課への移管により国の「こども家庭庁」の政策に直結した迅速な対応が期待されます。一方、園児数の減少による幼稚園の保育所への統合においては、幼保一元化のメリットを生かしつつ幼稚園教育の停滞に繋がらないような取組に期待します。</p> <p>学力向上の取り組みは、各地域の公民館を中心に地域と学校が連携して行われており、大きな成果が出ています。中学卒業後、親元を離れた環境下においても自分らしく、たくましく生きていける人材の育成につなげるために、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」(「何を学ぶか」から「どのように学ぶか」)を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組を一層進めてください。さらに、子どもたちの豊かな学校生活を保障するための基本となる学校給食については保護者の負担軽減と財源確保の継続に期待します。</p>
------	-------	--